

様式（第5条関係）

会 議 録			
令和2年度 第19採択地区教科用図書 第2回選定委員会			
招集年月日	令和2年7月9日（木）	開会場所	行田市産業文化会館 第2会議室
開閉の時刻 及び宣言者	開会 7月9日（木） 13時00分 閉会 7月9日（木） 16時15分	司会	学校教育課長
会長	行田市教育研究会長	副会長	中学校校長会長
席次番号	出席の委員	摘 要	
1	行田市教育研究会長		
2	小学校校長会長		
3	中学校校長会長		
4	学校教育課長		
5	P T A 連 合 会 長		
議 事 参 与 者			書 記
学校教育課指導主事兼主幹			学校教育課指導主事兼主幹

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	開会
会長	あいさつ
司会	資料確認
司会	協議に入らせていただく。協議の進行については、第19採択地区教科用図書選定委員会規約第9条2項により、第19採択地区教科用図書選定委員長様をお願いします。
会長	はじめに、第19採択地区教科用図書選定委員会規約第10条により、この会は公開とするが、よろしいか。
会長	【全委員承認】
事務局	事務局。傍聴される方は、来られているか。傍聴する方がいたら、傍聴について説明し、案内をお願いします。
事務局	（事務局より傍聴人に説明する。） ※傍聴人規則の説明
会長	（傍聴人着席）
事務局	事務局より研究結果報告について説明をお願いします。
事務局	本日の研究結果報告だが、教科ごとに全部の教科書について、調査員が作成した資料「第19・20採択地区教科用図書研究結果報告書」に基づいて報告する。報告後、質疑応答の時間となるが、報告書と調査員会での話し合いの内容に基づき、お答えさせていただきます。報告は、資料「令和3年度使用中学校教科用図書一覧表」の順で行う。また、各教科書の分量等の報告については、埼玉県教育委員会の調査資料をご参照願う。質問はあるか。
会長	それでは、始めに令和3年度使用中学校教科用図書の国語からの報告を願う。
事務局	「新しい国語」（東京書籍）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを支える言葉の力」で「論理的な言葉」「文学的な言葉」「対話的な言葉」の基礎的内容を取り立てて学習する教材が設けられている。 ・SDGsを根底においた題材を多く取り上げたり、現代社会ならではの課題に着目したりして、社会生活や個人と社会についての関わり等について考えることができるよう工夫されている。 ・巻頭に既習事項と1年間で学ぶことが整理されたり、巻末に3年間の学びが「言葉の力」として一覧になっていたりで、学習の見通しと振り返りができる工夫がされている。 ・学年で3つ現代的な問題を扱った文章や日本文学作品などを紹介し、併せて、関連する読書教材を提示している。資料編でもテーマごとに読書教材を紹介している。 ・生徒の興味・関心を喚起する日常、社会生活に関わるものを取

り上げていたり、発達段階に応じた文種・文章構成・文章量を設定したりしている。

- ・単元ごとに「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」が連動して、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫がされている。学習に関連する音声や映像などの資料がインターネットで活用できるようになっている。

「現代の国語」(三省堂)

- ・「情報の扱い方」については、グラフや図表、文章等、複数の情報を関連付けて考え、表現する単元を各学年で特設している。
- ・3学年を通して第一単元に「グループディスカッション」を配列したり、資料編で「メモの活用方法」や「メールの書き方」などを提示したりして、実践的な言語活動や技能の習得を図っている。
- ・巻頭の「領域別教材一覧」に各教材の「つきたい力」が整理され、学習の見通しが持てるようになっている。教材ごとに「学びの道しるべ」で学習過程が示され、何を学んだのか振り返りができるようにしている。
- ・「読むこと」の教材ごとに3つの読書教材を紹介している。読書単元「読書の広場」では、テーマごとに読書教材が紹介され、日本文学作品や古典、現代作家の作品を掲載し、学んだことが活用できるようになっている。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材や「読むこと」教材の「学びの道しるべ」は、学習手順を上段に、「学習のポイント」や「思考の方法」「語彙を豊かに」は下段に示すなど情報を整理したレイアウトになっている。
- ・巻頭に領域別教材一覧とともに各教材で付けたい力や言語活動が一覧となって整理されている。「読み方を学ぼう」では、「読み方」の基礎・基本が図式化され、日常生活で活用できる読み方が示されている。資料編では、情報の扱い方や話し合いの仕方など実践的な方法や社会生活に役立つ知識がまとめられている。

「伝え合う言葉 中学国語」(教育出版)

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、巻末の「表現に役立つ言葉」で場面ごとに表現の型を取り上げ、情報の扱い方につなげている。
- ・SDGsなど現代における多種多様な社会の課題を題材に、教材の始めの「学びナビ」で、文章の読み方を示したり、効果的な思考力のはたらかせ方を解説と図解で示したりして、活動内容を視覚化・明確化している。
- ・巻頭の「言葉の地図」と教材冒頭の「学びナビ」で身につけたい力を提示し、見通しをもって学習が進められる構成となっている。「みちしるべ」では、学習課題と振り返りを通して自分の学びを確認できる工夫がされている。
- ・各単元でテーマごとに関連する読書教材が紹介されている。各

<p>会長</p> <p>委員 C</p> <p>事務局</p>	<p>学年で2つ読書教材として現代的な話題を扱った作品や日本文学作品が掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文と脚注など内容のまとまりを明確化したり、文字と、イラストや図表、模様などとの空きや重なりに注意したり、マークやデザインの使用を統一的に整理したりするなど、教材の重点事項に集中しやすくなっている。 ・各教材の学習前に、「学びナビ」で学習の進め方が示され、学習後に「みちしるべ」で振り返りができるようになっている。巻頭に「言葉の地図」が示され SDGs の視点とともに学習の流れや身に付けたい言葉の力が一覧となっている。 <p>「国語」（光村図書出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に「言葉を集めよう」（1年）「言葉を比べよう」（2年）「言葉を選ぼう」（3年）という教材を系統的に位置づけ、巻末の「語彙を豊かに」とともに語彙の拡充を図る構成となっている。 ・「読むこと」の教材のあとに、そこで学んだことを生かせる言語活動の教材が配置され、関連づけて活動できるよう工夫されている。また、教材末の「言葉を広げる」では語彙の拡充を図る工夫も見られる。 ・巻頭に一年間の学習の学びが一覧で示され、見通しをもつことができる。巻末の「学習を振り返ろう」で領域ごとの問題に取り組み、1年間で身につけた力を確認することができるように工夫がされている。 ・情報のまとまりが認識しやすいように、各領域の教材名や覚えておきたい知識などは、アイコン・マークを付して示されている。また、表やグラフは形や線の種類、濃淡、地紋などで識別できるよう配慮されている。 ・各学年の巻頭に「続けてみよう」を設け年間を通して語彙を増やしたり言葉や情報に対する感覚を磨いたりすることの習慣化を目指している。 ・巻頭の見開きに1年間の学習の見通しが整理されており、「思考の地図」には、課題を解決したり考えを深めたりするための思考法が複数紹介されている。巻末に各領域や情報の扱い方についての資料が図式化され、社会生活に活用できるように整理されている。 <p>質問はあるか。</p> <p>調査員会議では、各会社の資料等における学習効果などについてはどのように話し合われたか。例えば東書では、「てびき」や「学びの扉」。三省堂では、「学びのみちしるべ」などがあるが。</p> <p>それぞれの会社ごとに設定された資料には、それぞれの特徴があることが話題としてあがった。例えば、日常の国語学習や他教科の学習、予習・復習などにも活用できるようになっていることや、文章の理解を助ける資料性の高いものや、生徒の想像を膨らませるイメージ豊かなもの、活動の手順や留意点をわかりやすく示すものなど、学習上必要なものを取り上げていることが報告さ</p>
----------------------------------	--

	<p>れている。</p>
委員 B	<p>これからの国語科の学習内容の改善として、小学校と同様、中学校においても語彙指導の充実が求められているが、どのような特徴があるか。</p>
事務局	<p>例えば、教育出版では、「読むこと」の教材で、重要な語句や表現を「この教材で学ぶ言葉」としてまとめ、巻末では「理解に役立つ言葉」を設け、語彙の拡充を図る工夫がされていることが報告されている。</p>
委員 A	<p>光村の「思考の地図」とは、どのような内容か。</p>
事務局	<p>場面や目的に応じた様々な思考法を使い、「思考を広げる」「思考を整理する」「思考を深める」の段階をおって、課題を解決したり自分の考えを深めていったりすることができるようになっている。</p>
会長	<p>次に書写の報告を願う。</p>
事務局	<p>「新しい書写」（東京書籍）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標」を立て、生徒が見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。「目標」、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」、「振り返って話そう」、「生活に広げる」という6段階の過程が設けられている。 ・単元の終末において、目的に応じた表現の仕方について学び、必要な情報を選択する等、段階的に演習を交えながら日常生活に生かせるような構成となっている。 ・「学習の進め方」で、①目標を確かめる②「書写のかぎ」を見つける③書いて確かめる等の六つの流れを説明している。 ・「生かそう」という学習過程には、毛筆で学習した点画の書き方等を掲載している。毛筆で学んだことを硬筆に生かせるような工夫をしている。 ・「生活に広げよう」では、はがきの書き方やポップの作り方等を記載し、日常生活で学んだことをイラストで説明している工夫がみられる。 ・「振り返って話そう」で、単元の振り返りを対話を用いて行えるような工夫がされている。「書写で学ぶこと」、「書写の学習の進め方」で学習過程を示している。 <p>「現代の書写」（三省堂）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標を確かめよう」、「書き方を学ぼう」、「見つけよう・考えよう」、「毛筆で書こう」、「学習を振り返ろう」、「書いて身につけよう」、「自分の言葉でまとめよう」という七つの学習過程を示して、学習の見通しをもたせている。 ・学年ごとに場面に沿った適切な文字の選択など、学習したことを生かせるような工夫として、手順を詳細に示している。 ・学習の流れとして、①目標を確かめて学習の見通しをもつ②書き方のポイントをつかむ③自分の言葉で自分の考えを書く等、7つの学習過程を設け、学習の仕組みを説明している。

- ・毛筆の学習で学んだことを、他教科や日常生活でも硬筆で応用できるよう書き込みをさせ、学習の振り返りができるように工夫されている。
- ・「やってみよう」において、新聞や情報誌を作成することで、生活と書写との関わりを示している。
- ・自分の言葉で直接教科書に記入する学習が特徴的である。主体的・対話的で深い学びがなせるような工夫が目立つ教材である。

「中学 書写」(教育出版)

- ・教材ごとに「目標」を示している。また、「目標」を意識しての「試し書き」や書き込み式の確認箇所を設け、字形を確認し文字のバランスを身につけさせるようになっている。
- ・各学年の取組において段階を追って章立て、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。また、教科書に学習のポイントや気づいたこと、まとめや応用を書かせる欄を設け、課題を意識し考えながら習得させるように構成している。
- ・「学習の進め方」として①目標(試し書き)②考えよう③生かそう④振り返ろう⑤学習や日常生活に生かそう、という流れが示されている。
- ・教材ごとに学習のはじめに硬筆で試し書きをしてから、毛筆での書き方を学ばせるようになっている。
- ・「学習を生かして書く」の単元で礼状、レポート、ポスター、新聞、掲示物、案内状などを扱い、また、巻末の「書式の教室」で、はがき、封筒、原稿用紙、願書などを取り上げ、生活と書写との関連を提示している。
- ・ABの判型である。巻頭の「目的に合わせて書こう」で「書く目的」ごとに「身につけたい力」とその方法や内容について示している。見開き2ページの右に目標と手本、左に「試し書き」「考えよう」等の学習項目を示している。また、学習効果を活用するために「学習活動や日常生活に生かして書こう」等の単元が設定され「書式の教室」といった資料が示されている。全体的に写真資料を多く提示している。

「書写」(光村図書出版)

- ・教科書と対応させながら、「書写ブック」を活用することによって、硬筆での筆使いや字形、組み立てなど基礎的な事柄を定着させる工夫がされている。
- ・「考えよう」の問いについて考えることで、主体的に学習のポイントを見つけられるよう構成されている。
- ・取り外して使える「書写ブック」が教科書と対応させながら活用できるように工夫されている。
- ・教科書の学習で毛筆を学んだ後に「生かそう」で学習したことを生かして硬筆で書くように構成されており、硬筆と毛筆を関連づけながら学習できるようになっている。
- ・身近な文字を取り上げ、さまざまな書体に触れられるようにな

<p>会長</p>	<p>っている。また、目的による文字の使い分けについても身近な生活に生かせる資料が掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を学ぶのが「学習の窓」で示されている。また、「書写ブック」の活用により、硬筆・毛筆どちらにも学びが生かせる。 <p>質問はあるか。</p>
<p>委員 D</p>	<p>中学生になると毛筆などを宿題など家庭でやることがないので、どのように筆の運び方などを学校で指導しているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校では、教師が実際に演示をして指導している。教科書においても、例えば、「まなびリンク」として、学習に役立つ情報を集めたウェブサイトの QR コードと URL が示され、アクセスすることで、毛筆教材の運筆動画を見て、字形の取り方等を確認することができる。</p>
<p>委員 E</p>	<p>現在行田市では、小学校においては国語と書写で使用している教科書の会社が違うが、国語と書写で会社を合わせることなどのメリットまたは逆に合わせないことのメリットとうについて話題としてはあがっていたか。</p>
<p>事務局</p>	<p>話題としてはあがらなかった。ただ、小中での系統的な指導という観点では、合わせるメリットについて1点、児童生徒にとってレイアウトや色あいなどの面などで活用しやすいのではないかという話はあった。</p>
<p>委員 B</p>	<p>「自分の言葉で直接教科書に記入する学習が特徴的である。主体的・対話的で深い学びがなせるような工夫が目立つ教材である」との調査報告があったが、具体的にはどのようなことか。</p>
<p>事務局</p>	<p>例えば、場面に応じて楷書か行書かの選択を問う教材があり、合わせて理由も記入できるようになっている。事前に自分の意見を書くことで理解し、それを周囲と意見交換し合うことで、対話が生まれ、多様な考えに触れることができ、いわゆる「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開がしやすることにつながる。という視点で報告されている。</p>
<p>会長</p>	<p>次に社会の報告を願う。まずは、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図の順に報告願う。</p>
<p>事務局</p>	<p>地理的分野について報告する。 「新しい社会」(東京書籍)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編や章・節の最後に「学習を確認しよう」や「〇〇をふり返ろう」があり、基礎的・基本的な知識・技能を確認することができるようになっている。 ・「見方・考え方」のマークを示し、地理的な見方・考え方を活用して考察する学習活動を提示している。 ・各編の最初に「小学校の学習を振り返る活動」及び「導入の活動」を設定し、学習への興味・関心を促す学習活動が示されている。 ・各単元の学習を、単元全体を貫く問いである「探求課題」と、探求課題の解決を補助する問いである「探求のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構成されている。

「中学社会」（教育出版）

- ・1 単位時間の内容が見開き 2 ページの中にまとめられ、見開きごとに「学習課題」と「確認／表現」がもうけられている。「確認！」では、その時間の学習で学んだ重要な語句などに着目しながら、基礎的な事柄を抑えることができる。
- ・「読み解こう」のコーナーがあり、資料の読み取りの視点を与えるとともに、資料をもとに考えを深める設問が示されている。
- ・最初に地理の学習を始めるにあたり、「小学校の学習の振り返り」、「中学校の学習の見通し」、「地理的な見方・考え方」についてのページが掲載されている。
- ・節ごとに「学習テーマ」や「学習の視点」が示されているとともに、1 単位時間ごとの学習課題が提示されている。

「社会科中学生の地理」（帝国書院）

- ・「技能をみがく」コーナーがあり、地理学習をする上で必要な基礎的な技能の育成を図るようにしている。
- ・章（節）末に、「章（節）の学習を振り返ろう」があり、各章（節）の思考力・判断力・表現力のまとめができるようにしている。
- ・日本の諸地域において、「地域の在り方を考える」のコーナーがあり、SDGs に関連したテーマを掲載し、持続可能な社会に興味・関心を喚起する工夫がなされている。
- ・章（節）ごとに学習の見通しをもたせるため、章（節）を貫く課題が設定されている。

「中学社会」（日本文教出版）

- ・「スキルUP」のコーナーがあり、地理の学習に必要な技能を習得できるようにしている。
- ・表紙扉において、地理的な見方・考え方について整理している。
- ・「チャレンジ地理」のコーナーがあり、社会の課題について考察・構想する学習活動を設定している。
- ・各章の導入で主に着目する見方・考え方を示している。諸地域の学習では各地方の地域的な特色を追究するためのテーマを表にしている。

続けて歴史的分野について報告する。

「新しい社会」（東京書籍）

- ・絵画資料を大きく取り上げる「資料から発見！」を設け、資料読解の技能を高めるために読み取りのポイントが指示されており、どこに注目し、どのように考えれば良いのかがわかりやすい。
- ・歴史的な見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設け、マークも付してあるので、より深い思考・判断ができるような工夫が見られる。
- ・歴史学習の終わりに「持続可能な開発目標（SDGs）」を取り上げ、SDGs について理解し、持続可能な社会について自分の考

えをまとめる「歴史のまとめ」で、学びを深められるようにしている。

- ・第2～7章は単元を貫く導入の活動を行い、導入の段階でまとめの活動を予告することで、単元の見通しをもたせている。

「中学校社会」（教育出版）

- ・「歴史の技」コーナーを適宜設け、資料の活用に関わる問いを通じて、歴史学習の基本的な技能を身につけられるような工夫が見られる。
- ・「確認/表現」や「学習のまとめと表現」にグループによる学習活動が設定され、協働活動をもとに、多角的に理解し考察を深めることができるようにしている。
- ・各時代の文化について、わかりやすいマークをつけて紹介し、日本の伝統的な文化とともに、世界の多様な文化についても理解を深めることができるよう配慮している。
- ・タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようにしている。

「社会科中学生の歴史」（帝国書院）

- ・紙面全体にわたるワイドなイラスト地図を世界史の画期となった時代に設け、世界の歴史の画期となった国際情勢の動きに対する理解が促進するような工夫が見られる。
- ・章末の「章の学習を振り返ろう」では、中学生が時代の特色の説明にいきなり挑むのは難易度が高いという考えから、3段階のステップを設けて、課題を解決できるような工夫が見られる。
- ・文化財などの写真を豊富に掲載したり、本文では文化の担い手となった人々の努力や工夫がわかったりするような工夫が見られる。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現をねらった活動を行う「多面的・多角的に考えてみよう」を3か所設け、人々の様々な立場とその多様性を踏まえた社会の成長を考えるための工夫が見られる。

「中学歴史」（山川出版）

- ・史料や図版・地図・グラフなどには、ポイントをおさえるための解説や発問を付し、見るべき視点を具体的に示す工夫が見られる。
- ・テーマで描いている事象が、どのような時代を背景としたものか、歴史の変化の過程でおこる諸課題がどのように解決され、積み重なってきたかを時期・推移・因果関係・差異などに着目しつつ学べるよう、本文の叙述や発問に工夫が見られる。
- ・日本の文化についての記述を通し、伝統と文化を尊重する態度を養うことができるような工夫が見られる。
- ・「歴史を考えよう」「地域からのアプローチ」の特設ページや課

題や発問を設け、生徒一人一人が課題を追究できるような工夫が見られる。

「中学社会」（日本文教出版）

- ・「基本用語」では、歴史学習における必要な知識を解説し、「スキルUP」では、技能を説明すると同時に、その向上が図れる工夫がされている。また、歴史の流れを大観しやすいように、各ページに年表が位置付けられている。
- ・歴史チャレンジでは、多面的な資料を選択させ、自分の判断に基づく議論を通して、時代の特色に迫る学習を位置付けている。また、対話的な学習を促す活動を設定している。
- ・地域を調べるという項目において、身近な地域や自分たちとの生活のつながりを意識させやすい歴史的事象の紹介がされている。
- ・各単元における「深めよう」という項目が、本時の課題に対する発展学習に位置付けられ、因果関係の記述を求めている。

「最新 新しい日本の歴史」（育鵬社）

- ・鳥の目で歴史の流れを大観できるよう、各章冒頭に各時代の歴史の大きな流れがひと目でわかる「歴史絵巻」を設けている。
- ・本文を多角的な視点で詳しく解説した多彩なコラムが、生徒の伝統と文化の特色を多面的・多角的に考察する力、公平な判断力、適切な表現力が養えるようにしている。
- ・歴史絵巻やなでしこ日本史など歴史を特徴的（別の視点からのアプローチ）に捉えたものが多く、多面的な見方・考え方と同時に、歴史への興味・関心につなげている。
- ・単元のまとめとなるページにおいては、前時代との「比較」の視点に重点をおいている。さらに主体的・対話的で深い学びの実現のため、問題解決型学習の教材配列で知識・思考・判断・表現の一体化を図っている。

続けて公民的分野について報告する。

「新しい社会」（東京書籍）

- ・章末の「学習をふり返ろう」で、章の知識・技能のまとめができるようにしていたり、「スキルアップ」のコーナーで、基礎的・基本的な技能が習得されるようにしたりしている。
- ・「みんなでチャレンジ」のコーナーで、対話的な活動をとおして、思考力、判断力、表現力の育成が図れるようにしている。
- ・選挙権や成人年齢の引き下げを配慮した「18歳へのステップ」のコーナーがある。また、各章の最初に「導入の活動」を設定し、章の学習への興味・関心を促す学習活動が示されている。
- ・章及び節ごとに章・節を貫く課題が示されているとともに、章の終わりに章・節の課題のまとめができるようになっている。

「中学社会」（教育出版）

- ・章末の「学習のまとめと表現」で、章の知識・技能のまとめができるようにしている。

- ・「公民の技」のコーナーで、学習内容に関連した学習活動を示し、活動を通して、思考力、判断力、表現力等を育成するようにしている。
- ・章の最初の見開き2ページで、章の学習の見通しをもたせる学習活動及びどのような学習を行うかの説明が示されている。
- ・「公民の学習を始めるにあたって」のコーナーで、公民学習の見通しや学びの記録としての「公民のノート」づくりの例が示されている。

「社会科中学生の公民」（帝国書院）

- ・「技能をみがく」コーナーで、学習する上で、必要な基礎的な技能の育成を図るようにしている。
- ・「アクティブ公民」のコーナーがあり、学習課題を示し、見方や考え方を働かせながら様々な立場から考え、選択・判断に取り組むようにしている。
- ・章の最初に見開き2ページで、章の導入の学習活動が示されるとともに、学習の見通しの説明文が示されている。
- ・章・節・1単位時間ごとに学習課題が示され、学習の見通しをもたせる工夫がある。また、章・節・1単位時間ごとに「まとめや振り返り」ができるようになっている。

「中学社会」（日本文教出版）

- ・編末の「学習の整理と活用」で、「学習内容と語句の整理」によって知識を、「ニュースを『見方・考え方』から見てみよう」で技能のまとめができるようにしている。
- ・学習内容の理解を深めるための主体的・対話的な学習活動として「アクティビティ」を多数示している。
- ・「明日に向かって」のコーナーで、生徒の将来の社会参画を考えた内容を示している。
- ・各1単位時間の学習課題が提示されるとともに、その学習課題の解決に向けて手がかりになる「見方・考え方」の例が示されている。

「新しい公民教科書」（自由社）

- ・公民学習に必要な重要な語句については、「ミニ知識」のコラムが設けられ、正しく理解できるようになっている。
- ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、「アクティブに深めよう」のコーナーでは生徒の活動に焦点を当てた構成となっており、活動を通して思考力、判断力を高めるようになっている。
- ・「もっと知りたい」のコーナーで、より一層深く物事が学べるようになっている。
- ・1単位時間の学習のねらいが教科書の各ページの冒頭に示されている。また、「もっと知りたい」のコーナーは多様な視点に気づき、学びを深めることができる資料が添えられている。

「最新 新しいみんなの公民」（育鵬社）

- ・章の終わりの「学習のまとめ」で、知識の習得の確認ができる

<p>会長 委員 E</p>	<p>ようにしたり、「スキルアップ！」のコーナーでは、基礎的な技能の育成が図れるようにしたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 単位時間ごとに、学習のまとめとして、「まとめる、説明する、調べる、発表する」等の課題を示している。 ・ 章の扉で、小学校で学習した関連内容を紹介するとともに、章の最初に「入り口」として、章で学ぶ内容を貫く課題として提示している。 ・ 巻末の「よりよい社会をめざして」の単元で、社会科学習のまとめとして、各自がテーマを設定し、レポートを作成する学習活動を示している。 <p>続けて地図について報告する。</p> <p>「新しい社会 地図」(東京書籍)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の 100 万分の 1 の一般図では、標高と地形区分による段彩を組み合わせて、地形の特色を読み取りやすくし、土地利用を概観する 50 万分の 1 の一般図との役割分担を明確化している。 ・ 縦向きの地図を効果的に使い、1 枚の地図に同縮尺で掲載することで、大陸部分を中心に、地球儀の代わりに使用できるようにしている。 ・ ご当地キャラクターを紹介するページや、オリンピック・パラリンピックの特集ページ、サッカーワールドカップの開催国の地図を掲載したページなど、生徒の関心が高まる身近なテーマの資料を取り上げている。 ・ 探究することができる課題を軸にした、課題解決的な学習に活用できる資料を選定して掲載することで、教科書での学習をサポートし、学習内容をより深く理解することができるようにしている。 <p>「中学生社会科地図」(帝国書院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳を活用する方法や地形図を読み取るための具体的な手順を示し、地図帳活用の技能や地形図の読図力を身につけられるよう配慮している。 ・ 自然環境、人口密度、言語、産業、日本との結びつきに関する資料などを国や州ごとに同縮尺で豊富に掲載することで、比較を通して気候と農業の関係性など、地域の特色について考えることができるようになっている。 ・ 寺社や施設などの特徴を描いたイラストを一新し、カラーでよりわかりやすくしている。またイラスト掲載数も増やし、修学旅行や校外学習でも活用できる資料や都市図が多数掲載されている。 ・ 人口問題、資源・エネルギー問題に関する資料図を多数掲載し、世界と日本の諸課題について深く学べるようになっている。 <p>社会地理的分野に関して、質問はあるか。</p> <p>新学習指導要領においては、「見方・考え方」を働かせながら学びを深める授業改善の必要性が示されたが、地理的分野につい</p>
--------------------	--

事務局	<p>てはどうか。</p> <p>地理的分野については、社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で人間の営みと関連付けることとされており、調査員会議ではどの教科書においてもそういった特徴が見られると話題になった。</p>
委員 D	<p>去年は小学校の教科書が採択されていたが、例えば、小学校で使われている社会科の教科書と違う会社の教科書でも問題はないのか。</p>
事務局	<p>特に小中で使用する教科書の統一については話題に上がらなかった。</p>
会長	<p>社会歴史的分野に関して、質問はあるか。</p>
委員 D	<p>史実の取り上げが各会社で特徴があるように感じるが、学習していく上で支障はないのか。</p>
事務局	<p>どの教科書についても学習指導要領に準拠しており、問題はないと思われる。</p>
委員 B	<p>QRコードや二次元コードなど、インターネットを利用しながら活用できる工夫がそれぞれの教科書で確認できるが、もう少し詳しい説明を願う。</p>
事務局	<p>例えば、二次元コードを利用し、教科書に掲載している一部の資料をタブレットなどで閲覧でき、すべての生徒にとって理解しやすくなるような工夫が見られる。さらに、会社によっては、Dマークが付いているところの内容は、インターネットを使って関連する教科の教科書紙面を見ることができると、生徒のつまずきを補うシミュレーションや動画などのコンテンツも獲得できたりする。</p>
委員 C	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、歴史について考察する力や説明する力の育成を重視していることが報告されているがもう少し詳しく教えてほしい。</p>
事務局	<p>各節の単元構成を「世界の動き」「日本の動き」の順で配列し、時代背景を大局的におさえながら学習できるように配慮し、日本の歴史に影響を与えた世界の歴史についての内容を充実させたりし、学習する過程を工夫することで、「主体的・対話的で深い学び」を意識している。</p>
委員 A	<p>社会科特に歴史については、授業において資料が一番の命となることから、資料についての特徴はどうか。</p>
事務局	<p>Dマークの活用や巻末に内容の確認や自学自習で活用できる資料ページがあったり、節の冒頭に「タイムトラベル」を設け、その時代を概観できるような工夫が見られる。さらに、図版は大きく、見やすくしたり、「地図で見る世界の動き」のページ等で、年表に関連させながら時代を把握できたり、意図的に視覚的なもの（写真・イラスト・絵図）が多く用いられていたり、どの会社も資料については充実している。</p>

会長	社会公民的分野に関して、質問はあるか。
委員 E	新学習指導要領の実施については、どの教科においても課題解決的な学習もキーワードとしてあげられ、公民的分野についてもその報告があったが、もう少し詳しく教えてほしい。
事務局	まず、学習の見通しをもたせるため、章及び節を貫く課題が提示されている。また、それに迫るための1単位時間の学習課題も提示されており、章全体で、課題解決学習ができるような教科書構成になっているものもある。
委員 C	今、話にあがった課題解決的な学習には、思考力や判断力を育成することが求められるが、そういった点で各教科書の特徴としてはどうか。
事務局	思考力を育成するための「シンキングツール」を紹介していたり、「みんなでチャレンジ」のコーナーで、対話的な活動をとおして、思考力、判断力、表現力の育成が図れる工夫をしていたり、「アクティブ公民」のコーナーなどで、学習課題を示し、見方や考え方を働かせながら様々な立場から考え、選択・判断に取り組むようにさせていたりなどの特徴が報告されている。
委員 D	学習内容が増え、教科書も重くなり、小学校ではランドセルの中身の重さについて話題としてあがっていたこともあるが、社会科については4種類もの教科書があり、それぞれの教科書の重さや大きななどは調査員の間で話題としてあがったか。
事務局	特にそのような話題としてはあがらなかった。しかし、どの会社の教科書についてもそう大きく、形や重さに開きはないように感じると、印象としてあがった。
会長	社会地図に関して、質問はあるか。
委員 B	地図については、見やすさも含め、色合いやコントラストについての特徴が気になるが。話題としてあがったか。
事務局	2社の色合いやコントラストには、それぞれ特徴があり、調査員の間でも話題としてあがった。
委員 B	具体的な特徴をもう少し詳しく説明願う。
事務局	東京書籍は、一般図や資料に明るい色づかいを採用して、地図上の文字の可読性を高めるとともに、色覚特性がある生徒にも区別しやすく読み取りやすい配色であることが報告されている。また、帝国書院は、色覚特性のある生徒さんにも地図や資料が読み取りやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用し、さらに地図ページ中の国名・都道府県名の赤文字には、白色で縁取りをしていることなどが報告されている。
委員 C	特に資料面については、話題としてあがったか。
事務局	東京書籍は、歴史的分野や公民的分野の学習で活用できるページや資料を随所に掲載し、歴史・公民マークを付して明示することで、3年間の社会科学習全体で活用できるようにしている。帝国書院は、統計資料について、巻末にまとめて掲載され、地方別、項目別に色分けがされているため、数値的に地域の特徴や違いを捉え説明しやすいよう配慮されていることが話題としてあがった。

<p>会長 事務局</p>	<p>次に数学の報告を願う。</p> <p>「新しい数学」(東京書籍)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びをふり返ろう」のページを内容のまとめりに設け、問題解決のために用いた表現・処理方法を自分の言葉でまとめることで、知識・技能の定着を目指している。 ・「数学の自由研究」のページでは、身近な事象に関連して、数量や図形などを数理的に考察するような題材などが取り上げられ、数学的な思考力・表現力を高めるように構成されている。 ・事実、方法、理由を説明する記述式の問題を中心に取り上げている。各章の利用問題にある「深い学び」では、日常生活に見られる具体的な問題場面が取り上げられており、数学を学ぶ意義や有用性を実感できるようにしている。 ・巻末の「「深い学び」をふり返ろう」のページでは、数学的な見方・考え方について再確認する場を設けている。 ・一問一答式ではなく、記述式の問題に多く取り組ませることで、数理的に考察する経験を多く積むことができる。その経験から、数学的な思考力や表現力が高められるように構成されている。「深い学び」では、日常への数学の有用性を実感できる資料が多く盛り込まれており、主体的な学習を促すものとなっている。 <p>「数学の世界」(大日本図書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容の定着を図るために、「プラス・ワン」や「たしかめよう」など既習事項を繰り返し練習する機会が設けられている。 ・「活用・探求」のページでは、章ごとの学習だけではなく、教科横断的な学習も取り入れており、統合的・発展的に課題を解決することができるようにしてある。 ・章末に「ふり返ろう」のページを設け、学習の振り返りを行うことができる。さらに幅広い知識を習得するための発展的な課題として「力をのばそう」を設定している。 ・「利用の節(項)」のページでは、教科書右端に課題解決の進め方を示している。身のまわりの事象の中から問題を発見し、考察する過程が明確になっており、学習内容の有用性を実感できるようにしている。 ・各節に、基礎・基本が身につくように「活動」「たしかめ」「Q」が配列されている。 <p>「中学校数学」(学校図書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例題では、ノート形式で適切な箇所に解答を示し、模範的な解き方を例示している。ノートを書く際に気をつける点についても触れられており、生徒の思考のまとめ方の基礎・基本を身につけることができるようにしている。 ・「深めよう！」のページでは、章ごとの学習だけではなく、教科横断的な学習も取り入れており、統合的・発展的に課題を解決できるようにしてある。
-------------------	---

- ・章の学習の最後に、「できるようになったこと」と「さらに学んでみたいこと」を設け、これまでの学習を振り返って、評価・改善できるようにしている。
- ・「数学的活動」のページでは、教科書左端に課題解決の進め方を示している。
- ・生徒同士がやり取りをしている場面を多く取り入れ、より生徒目線で学習が進められるような工夫がされている。章の学習の最後では、自己評価の場面を設けており、個々の習熟の程度を確認することができる。

「中学数学」（教育出版）

- ・章の入り口にはその章に関連する既習事項を確認する問題、出口では章で学習した基礎的・基本的な内容がまとまったページを設けている。
- ・事象を論理的に考察する力を養うために「友だちの考えを知ろう」「みんなで話し合おう」のラベルを付け、課題を話し合っ解決する場面を設けている。
- ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために学習感想の書き方の例を示し、学習感想を書かせる場面が設定されている。
- ・学習のめあてを明確にして数学的な課題解決につなげられるよう設定されている。
- ・数学の教材や話題が掲載され、幅広い知識と教養を身に付けられるよう工夫されている。また、言語活動「みんなに説明しよう」や日常生活や社会への利用する課題「数学への広場」が設定されており、数学的活動を通して、数学のよさが実感できるよう配慮されている。

「未来へひろがる数学」（新興出版社啓林館）

- 「算数をふりかえろう」や本文中の「ふりかえり」マークで学習内容に関連する既習事項が取り上げられ、復習や学び直しをするように構成されている。
- ・数量や図形などの性質を見だし総合的・発展的に考察する力を養うために「学びを生かそう」が設定されている。
- ・「自分から学ぼう編」においては、「学びのあしあと」で主体的に学び直しができるようになっている。
- ・章末「数学ライブラリー」や「学びを生かそう」では日常生活や社会、他教科と数学の関わりを考えることができる題材を扱い、数学を様々な場面に利用する活動のよさを感じながら主体的に学習が進められるように設定されている。
- ・「みんなで学ぼう編」には、小中の系統性を重視し、スパイラル学習の徹底による基礎・基本の定着と利活用の場面を設定し、思考力が養えるよう工夫されている。

「これからの数学」（数研出版）

- ・身近な事象や明瞭簡潔な例を取り上げ、図や補足を用いた丁寧な説明で理解できるようにしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」や「TRY」において、解決の思考を対話形式で掲載することで、根拠を明確にして考えるように構成されている。 ・章のとびらには身近な題材を扱い、各章や「数学旅行」で日常生活の中にある数学に着目した題材を取り上げ、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うことができるようにしている。 ・問題発見・解決の過程に基づき、学習内容を習得できるようにしている。それぞれの場面でポイントとなる箇所には、キャラクターたちの対話を記すことで数学的に考える資質・能力の育成を促している。 ・各章の初めに「ふりかえり」や学習内容・目標の明示、例題の丁寧な扱いなど、基礎・基本を習得しやすく構成されている。また、数学的活動を促す場面を多く設定しており、数学的な見方や考え方のよさを実感するとともに、知識や技能が幅広く身につくように構成されている。 <p>「中学数学」（日本文教出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各章の直前や各小節の導入問題で既習事項を確認し、学びの連携を図ることで理解できるようにしている。 ・「学び合おう」には表現のしかたを練り上げるために対話シートが用意されており、巻頭の「ノートにくふう」、巻末の「数学レポートをかこう」とあわせて表現力の向上が図られている。 ・自己評価の充実のために、「数学の学習を始めよう！」でふり返りのポイント、「ノートにくふう」でふり返りの記述例が丁寧に説明されている。 ・巻頭の「数学の学習を始めよう！」と「学び合おう」をつなげることで、数学的活動の学びの流れをつかみ、学びを深めることで数学的に考える資質・能力を育成するように構成されている。 ・学び方の説明の「数学の学習を始めよう！」や発展的課題の「数学トライ」が設けられ、主体的な学習を促すように構成されている。
会長	質問はあるか。
委員 A	数学的活動を促す場面を多く設定すると報告にあったが、主にどんなことが話し合われたのか。
事務局	小学校においては、日常生活から課題を想起させたり、具体的な操作や体験活動を通して考えさせたりするなどが考えられ、中学校においては、根拠を明確にして、筋道を立てて話し合う活動が考えられる。そういった中学校数学として充実した活動が教科書の内容を契機として行えるかという視点で話にでた。
委員 D	「数学的活動」という視点で、各教科書の特徴はどうか。
事務局	どの会社の教科書についても、生徒の疑問を引き出し、学習のめあてや課題を明確に設定したつくりになっており、根拠を明確

	<p>にして互いに話し合う活動を充実させることができるつくりになっていることが話し合われていた。</p>
委員 E	<p>教科書の内容について、難易度という視点では話題としてあったか。</p>
事務局	<p>特に話題としてはあがらなかった。</p>
委員 E	<p>どの教科も、小中での学習内容の系統性を意識して指導していくことは大切であるが、特に算数・数学は積み重ねが大切な教科である。そういった視点での報告はあったか。</p>
事務局	<p>例えば、啓林館「みんなで学ぼう編」には、小中の系統性を重視して、基礎・基本の確実な定着と利活用の場面を設定し、思考力が養える工夫がされている。他の会社についても十分系統性について配慮されていることが報告されている。</p>
会長	<p>次に理科の報告を願う。</p>
事務局	<p>「新しい科学」（東京書籍）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでに学んだこと」で既習事項を確認し、単元ごとの「学習内容の整理」で重要語句などを復習し、「章末」問題や「確かめと応用」で繰り返し学習できるようになっている。 ・観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で、結果・考察の視点を示している。また、「Before & After」で、学習前後の考えを比較できるようにしている。 ・「学んだことをつなげよう」では章で学習したこと全体を結びつけて考えるようにしてあり、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。 ・教科書の左下に「問題発見」「?」「仮説」「構想」「観察実験」「分析解釈」「検討改善」「!」「ふり返り」「活用」のマークがあり、探究の流れが確認しやすく工夫されている。 ・「from Japan 世界につながる科学」で学習内容に関わる科学の話題を紹介している。また、楽器職人やパン職人の方などのインタビューを掲載し学習内容に関わる職業を紹介している。 <p>「理科の世界」（大日本図書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本操作」を設け、観察や実験の基礎技能を習得させるようになっている。 ・観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で、結果・考察の視点を示している。また、「話し合おう」では思考や表現する場面を示している。 ・生徒が自ら探究に取り組めるよう、「私のレポート」「探究活動課題を見つけて探究しよう」等で、その方法や結果例を具体的に紹介している。さらに「やってみよう」の項目があり、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。 ・観察・実験では「着目点」を示し、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験を行えるようになっている。 ・科学館や博物館、動物園などを紹介しており、これらの施設を

活用することで理科の学習が深めるよう図られている。

「中学校科学」(学校図書)

- ・「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項を示し、「QR コード教材」で繰り返し復習させるようになっていたり、観察や実験の近くに「基礎操作」を設け、基礎技能を習得させるようになっていたりする。
- ・探究の過程の中で、特に力を入れたい項目のある観察・実験は、「しっかり考察」「しっかり計画」「しっかり話し合い」などのタイトルがついている。
- ・各章のはじめに、その章で「できるようになりたい目標」を示しており、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。
- ・教科書の左側に「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」「結果」「考察」「ふり返り」「活用」のマークがあり、探究の進め方が確認しやすく工夫されており、「この時間の課題」に対して理科の「見方」・「考え方」を示すことで、考える助力となるよう工夫されている。
- ・単元末の「学びを日常にいかしたら」では、対話形式で日常生活の疑問などから設問につながる工夫がなされている。

「自然の探究 中学校理科」(教育出版)

- ・「これまでの学習」「思い出そう」で既習事項を示し、単元ごとの「要点と重要用語の整理」で重要語句を復習し、「基本問題」や「学年末総合問題」で繰り返し復習させるようになっている。
- ・観察・実験では、「結果」と「結果」で、結果・考察の視点を示している。また、「話し合おう」では思考や表現する場面を示している。
- ・「やってみよう」「参考」「チャレンジ」のマークで、課題を見つける活動や、さらに調べていく活動などを示しており、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。
- ・教科書の左側に「目的」「準備」「方法」「結果」のタグがあり、探究の進め方が確認しやすく工夫されている
- ・「ハローサイエンス」で科学の話題を、「科学者列伝」で学習内容に関わる科学者を紹介していたり、「ブリッジ算数」で、小学校算数で学習する内容と関連がある事を示していたりしている。

「未来へひろがるサイエンス」(新興出版社啓林館)

- ・観察や実験の近くに「観察・実験のスキル」を設け、基礎技能を習得させるようになっている。
- ・観察・実験では、結果や考察の視点を示している。「探Q実習」や「探Q実験」、「表現してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。
- ・観察・実験の最後に「探究のふり返り」があり、探究の過程を

<p>会長</p>	<p>振り返り、残っている疑問や新たな課題を確認することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他では発展的な内容として深くは触れていない「身のまわりのものから発生する気体」実験を大きく取り上げている。既習事項をもとに実験計画を立てるところから行い、学習活動の充実を図る工夫がなされている。 「科学コラム」として「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」「深めるラボ」があり、学習内容に関わる科学の話題や日常生活でどのように活用されているかなどを紹介している。 <p>質問はあるか。</p>
<p>委員 B</p>	<p>理科は好き嫌いがはっきりする教科になるが、各会社においてどんな興味・関心を引く工夫がされているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>すべての会社において、子供たちの興味をひく、大きく分かりやすい写真や資料を活用している。巻末資料として「ペーパークラフト」があり、興味関心を持ちながら、学習内容の理解を深める工夫がなされているものもある。</p>
<p>委員 C</p>	<p>実験の安全性について、どの教科書も触れられていて注意書きがあるが、注意喚起の分かりやすさ、伝わりやすさという視点ではどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>5社を比較すると、たくさんの注意書きを示している教科書もある。また、その中で絞って注意書きをしている教科書もあり、注意喚起の分かりやすさ、伝わりやすさという視点では5社の教科書とも配慮されている。</p>
<p>委員 E</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校が臨時休業となり、各家庭で自ら学習する機会が多くあった。今後も第2波、第3波が懸念されているが、理科は観察や実験活動が伴うことから、そういった視点での教科書の活用方法の可能性は話題としてあがったか。</p>
<p>事務局</p>	<p>調査員の間でも、教科書の各家庭での活用方法の可能性について話題があがった。例えば、QRコードからウェブサイトに入ることができ、実験器具の使い方や演示実験などさまざまな動画を閲覧することができるなどの工夫がある。</p>
<p>委員 D</p>	<p>「理科離れ」という言葉を一時よく耳にしたが、動画を活用しながら学習を進めていくことができる教科書の可能性はすごい。他の視点で生徒が楽しみながら理科を学べる工夫についてはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>各会社資料を充実してそろえている。例えば、巻末資料として、生物や原子、星座早見カードがあり、楽しみながら学習内容の理解を深める工夫がなされていたり、「アイデアボード」で、理解を深める工夫がされていたりするものもある。</p>
<p>会長</p>	<p>次に音楽、一般、器楽の順に報告を願う。</p>

事務局

「中学音楽」（教育出版）

- ・曲想と音楽の構造、歌詞の内容、曲の背景、音楽の特徴との関わりを踏まえ「主要教材」による学びを基盤にして「比べてみよう」「深めてみよう」を活用することにより知識や技能が身に付けられるように配慮されている。
- ・他者と協働しながら表現を工夫したり音楽や演奏のよさや価値を考えたりする学習のために、キャラクターによって具体的な内容を示したり「話し合おう」で考えを交流できるようになっている。
- ・「Let's try!」では、我が国の伝統音楽を学習する際に、唱歌や伝統的な歌唱、箏を演奏するなど表現と鑑賞の関連を図った体験活動ができるように工夫されている。
- ・創作教材「音のスケッチ」では、学習内容と具体の活動をわかりやすく示し、リズムや旋律をつくったり、音を音楽へと構成したりする楽しさを体験できるようになっている。
- ・歌唱と鑑賞の学習では、主要教材と比較することから様々な音楽の共通性や固有性を考えその特徴を理解し、音楽文化の多様性に気付かせるように工夫されている。

「中学生の音楽」（教育芸術社）

- ・学習指導要領の内容及び楽曲の性格に即して、ねらいを明確化した教材が配列されており、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」を各教材に設定し、一目でわかるように示している。
- ・知覚・感受したことをもとに「思考・判断・表現」を行うためのヒントをキャラクターの吹き出しで示すほか、思考した内容を記述する場面を設定したり、ワークシートを掲載したりするなど手順が分かりやすく示されている。
- ・我が国や郷土の伝統音楽の唱歌や伝統的な歌唱を歌ったり、「指揮をしてみよう!」では鑑賞曲や歌唱曲を聴きながら指揮をしたり、リズムを打ったりする体験活動を取り入れ、実感を伴って理解できるように工夫されている。
- ・歌唱教材は生徒の心情的な発達の段階に沿ったものであり合唱曲の編成、各パートの音域など学年に応じて考慮されている。また、基礎的な学習内容を確認する「My Voice!」が配置されている。
- ・生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集、歌唱及び鑑賞教材ではアジアや世界の音楽文化や原語を取り入れた教材、世代を超えて日本の文化を共有することができるよう「歌い継ごう 日本の歌」が配置されている。

続けて「音楽・器楽合奏」の報告をする。

「中学器楽」（教育出版）

- ・各楽器の基本的な奏法が身に付けられるよう「学びのねらい」「学びのポイント」が明記され、身に付けた技能を生かして「まとめの曲」が表現できるよう工夫されている。
- ・「何が同じで、何が違う?」のページでは、吹く楽器と弾く楽

	<p>器について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう書き込み欄が設けられ、話し合う場面も設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吹く楽器」「弾く楽器」「打つ楽器」のまとまりで、我が国や諸外国の音楽文化の理解を意図した教材が提示されている。 ・各楽器の音色や響きと奏法との関わりを踏まえ、基本的な奏法を手順を追って取り組むことができるよう工夫されている。 ・和楽器や洋楽器などの特徴を踏まえて共通点や相違点について考えたり、楽器の背景にある文化や伝統について考えたりするページが設定されている。 <p>「中学生の器楽」（教育芸術社）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な技能を身に付けられるよう、冒頭に器楽表現の工夫をする「アンサンブルセミナー」を配列し、次にそのために必要な技能を習得するための教材が設定されている。 ・「思考・判断・表現」を行うためのヒントをキャラクターの吹き出しで示すほか、思考した内容を記述する場面や「深めよう！音楽」のコラムでは、表現活動を通して思考力・判断力を育む場面も設定されている。 ・学習の見通しを持つことができる「学びの地図」や考える視点を示すキャラクターやコラムが設定され主体的に学習を進められるよう工夫されている。 ・各楽器とも、平易な練習曲から学習が進められるようになっている。また、アンサンブルの教材では、様々な楽器編成に対応できるよう編曲上の工夫や楽器の編成を選択できるように設定されている。 ・打楽器のセクションでは、諸外国の民族楽器を取り上げ、諸外国の音楽文化に対する理解が深めるように配慮されている。
会長	音楽一般について質問はあるか。
委員 B	時代の流れか、小学校の教科書と同様、音楽でも二次元コードで学習のサポートを促す工夫がされているようだが具体的にどのような内容があるのか。
事務局	実際に楽譜のメロディーを聴けたりするなど、学習の内容を理解しやすくするための動画を公開していたり、音声などの情報も視聴できる。
委員 C	学習資料の点での特徴は、何か話題としてあがったか。
事務局	教育出版では、鑑賞教材の学習資料「巻末」はワイドなビジュアル図鑑になっていて注意をひきやすいことが報告されている。また、教育芸術社については、多彩なジャンルの作品を紹介する資料が掲載されていることが報告されている。
委員 D	曲数などについては議論されたりしていたのか。
事務局	とくに調査員会議の中では話題としては上がらなかった。

委員 D	扱う曲についてそれぞれ特徴を感じたが、中学校の音楽は何時間の授業時数が割り当てられているのか。
事務局	1年生が45時間。2、3年生が35時間配当されている。
会長	音楽器楽について質問はあるか。
委員 A	中学校の様子として、和楽器などについては、生徒からの馴染みも薄いと感じるのであるが、そのような視点で各教科書の特徴はどうか。
事務局	民謡、長唄、能の謡について、音の高低がわかる絵譜を掲載していたり、各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示し、楽器の構え方など、複数の角度からの写真が掲載されたりしていて、奏法などの説明がされているなどの工夫が報告されている。
委員 D	和楽器とかは、各学校にあるのか。各学校で、設置にばらつきがあるものなのか。
事務局	和楽器については、各学校で備品として整備されている。
会長	それではここで10分間の休憩とする。
	【休憩】
会長	後半を再開する。 美術の報告を願う。
事務局	<p>「美術」（開隆堂出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとのページで用具・材料・技法を図版・写真で示し、表示・マーク等で注釈し、さらに巻末資料で手順などを加えて詳細をまとめ、基礎的・基本的な知識・技能が身に付くよう工夫されている。 ・作者自身の言葉、生徒や作家の制作過程や作品解説など、表現を支える情報を精選・整理して掲載し、発想・構想、鑑賞の場面で思考力、判断力、表現力等の育成が促進されるよう工夫されている。 ・カリキュラムマネジメント、小・中学校の系統性や生涯学習を意識し、題材ごと欄外に他の教科等との関連を、1年の初めに図画工作、3年の終わりに生涯学習との関連を示し、教育課程全体で総合的に「生きる力」の育成につなげられるように工夫されている。 ・制作過程や用具・材料・技法が生徒の視点に立って説明され、学年に応じて系統的に示されており、生徒個々が創意工夫し美しく表現したり、自身の感じ方で鑑賞したりするための配慮が見られる。 ・学習指導要領の目標・内容を意識するよう、題材に応じて「学習の目標」を3つの柱で示し、爪見出しで学習指導要領上の位置付けを確認できるようにし、「学習のポイント」で生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながるようレイアウトされている。

「美術」（光村図書出版）

- ・各題材のページに巻末資料へのリンクマーク（リンク先のページ番号）を付し、題材に応じた用具・材料・技法を参照して基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるよう工夫されている。
- ・生徒や作家の発想の仕方等を写真・図版や文章で紹介して発想・構想、鑑賞する上でのヒントをマークや文字圏で示し、思考力、判断力、表現力等の育成が促進されるよう工夫されている。
- ・題材ごとに総括的な目標を短文で示し、チェック欄を設けて振り返りができるようにしたり、ヒントをマークで示したりすることで、主体的に学習に取り組む態度を養う工夫をしている。
- ・多様な表現方法を紹介し、題材によって紙質や体裁を変化させ、多様な使い方ができるようになっており、自分のイメージに応じた表現方法を見付け、選択することができるよう配慮されている。
- ・学習指導要領の目標・内容を意識するよう、爪見出しで学習指導要領上の位置付けを示し、題材名の下に表現と鑑賞2領域の目標を立て、ページの中程においても表現・鑑賞2つの視点を示し、常に2領域を念頭に学習活動が進められるようレイアウトされている。

「美術」（日本文教出版）

- ・各題材のページに写真・図版で活動に直接関わる用具・材料・技法を数多く示し、巻末資料においてもふんだんに情報を掲載して基礎的・基本的な知識・技能を理解し身に付けるように構成されている。
- ・各題材で生徒や作家の言葉を掲載するとともに、それを創造活動に生かすために造形的な視点からの問い掛けを示すことで、思考力、判断力、表現力等の育成が促進されるよう工夫されている。
- ・カリキュラムマネジメント、小・中学校の系統性を意識し、題材ごと欄外に道徳科との関連を、1年初めに図画工作を示すほか、巻頭のオリエンテーションのページで生涯学習との関連について学ぶことができる内容構成・配置となるよう工夫されている。
- ・題材ごと、ヒントとなるコーナーや資料がふんだんに提示されており、各ページを閲覧する中で、生徒個々が多様な表現・鑑賞の仕方があることに気付き、選択して学習できるよう配慮されている。
- ・学習指導要領の目標・内容を意識するよう、題材名の上に活動や目的を示すサブタイトルを付し、3つの柱による「学びの目標」を示している。ページごとの限られたスペースに可能な限りの情報を掲載して、生徒が主体的に学習できるようレイアウトされている。

会長

質問はあるか。

委員 D	音楽などは、扱う教材「文部省唱歌」のようにある程度の指定はあるように感じたが、美術は扱う絵画や画家などの指定などがあるのか。また、その点について各教科書の特徴はどのようなものか。
事務局	美術については、学習指導要領解説において、具体的な絵画や画家の記述はありません。ただ、どの教科書についても、学習指導要領解説の目標を達成するために必要な教材の取り扱いがされていることが調査員会議においても話題としてあがった。
委員 E	やはり美術の教科書であるので、色彩やレイアウトなどにこだわりをもった内容になっていることは必要不可欠であると思うが、その点で教科書の特徴はどうか。
事務局	教科書の大きさも、A4判や A4判ヨコ2cm長の変形判などで構成され、どの教科書も内容についても、系統性を意識した題材が掲載されていることが報告されている。
委員 B	美術教科書の QR コードについての内容は充実しているか。
事務局	例えば光村図書は、題材に応じて QR コードを掲載し、作品の 360 度動画や音声ガイド、関連する技法の動画を視聴して学習活動に生かすことができることが報告されている。その他の会社についても、掲載作品の 3D 画像、スワイプで角度を変えられるものや動画等が確認できる。
委員 C	よく、特別支援学級の生徒も進んで美術に取り組んでいるが、特別支援の視点からどのような配慮がされているか。
事務局	ユニバーサルデザインフォントを使用し、全ての生徒が等しく進んで学べるように工夫されていることが報告されている。
会長	次に保健体育の報告を願う。
事務局	<p>「新しい保健体育」（東京書籍）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見つける」「課題の解決」「広げる」の3つに学習ステップが分けられ、学習を進めやすくする工夫が見られるとともに、章末資料では、学習した知識から思考力をさらに広げさせる問いがあり、調べたいことや日常生活に生かすための意欲喚起につながられている。 ・知識の「習得」や「活用」をする項目があり、話し合ったり、深めたりする学習活動を意図的に設定することで、思考力・判断力・表現力等を育成する内容となっている。 ・ロールプレイングやブレインストーミング形式の授業形態に役立つ教材が豊富にあり、知識や思考を広げ、深めることができるように工夫されている。 ・科学的に理解するために、多様な視点から物事をとらえられるよう、学習内容と関連が深い話題「読み物」を掲載し、理解を深めることができるように工夫されている。 ・「教科書の使い方」が丁寧に示してあるとともに、多くの口絵を用いて学習内容を深めたり、発展させたりできるように配慮されている。 ・「見つける」から「広げる」まで明記されており、授業の流れ

を視覚的にわかるようにすることで、生徒も見通しをもって主体的に取り組むことができるように工夫されている。

「中学校保健体育」(大日本図書)

- ・小單元において、キーワードで学習内容の振り返りができ、章末では重要語句や要点の確認ができるようになっているとともに、イラスト等の資料や写真をふんだんに取り入れ、技能の習得に役立つ工夫がされている。
- ・「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」の項目で活動場面を示し、思考力・判断力・表現力を育成する内容になっている。
- ・導入の段階で、生徒の興味・関心を高めるための図や挿絵があることや、口絵では、生徒が保健体育を学習する重要性を理解できる内容になっている。
- ・章末の「学びを活かそう」では、記入欄に自らの考えを書き込むことができ、生活化につながる課題が設定されている。
- ・現代的な諸課題として、オリンピック・パラリンピック教育、防災教育、情報活用能力、情報モラル、ストレスへの対処法などを深く学べる資料が豊富に掲載されている。
- ・深い学びを実現させるために、すべての章において、話し合い活動を通して思考を広げ深めていく工夫がされている。図のページの背景色が若干暗く感じるが、背景色を変えるとさらに見やすい。

「最新中学校保健体育」(大修館書店)

- ・イラストや図が多く、視覚的に知識と技能の習得ができる工夫がされており、本時の学習課題を「きょうの学習」に示すことで、ねらいの明確化が図られ、学習の見通しがもてるような工夫が見られる。
- ・学習の中心となる学びを深める活動において、話し合ったり、発表し合ったりできる課題を問いとして示すことで、さらに学習したことを広げたり、深めたりする活動につなげやすい。
- ・興味、関心のある運動、スポーツに関する話題や中学生にかかわる健康課題を積極的に取り上げることで、主体的に取り組む態度を育む工夫がされている。
- ・「コラム」や「保健の窓」で著名人の話や身近な話題にふれており、知識を発展させ、実生活につなげることができるように工夫されている。
- ・実習資料などの理解を深めるための写真やイラストが豊富でわかりやすく解説されており、学習した知識や技能を相手にわかりやすく伝える手立てとなっている。
- ・学習の流れや学び方が系統性をもって構成されているため、見通しをもって学習に取り組むやすい。

「中学保健体育」(学研教育みらい)

- ・章末の「章のまとめ」では、單元ごとに確認問題があり、「振り返ろう」「確かめよう」「生かそう」の3つ項目に分けて学習

	<p>の振り返りがしやすくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で、課題解決学習を通して、思考力・判断力・表現力等が育成されるようになっている。「考える・調べる」では、自身の生活を振り返り、話し合い学習につなげることができるように工夫されている。 ・事例や情報などの問いから、学習する課題を発見しやすく、興味・関心をもたせる工夫がみられる。 ・ほとんどのページの下欄に「情報サプリ」としてワンポイント知識が掲載され、学習内容を補足する役目を果たしている。 ・理科、技術、家庭科、社会科などの他教科と関連が深いところでは、関連がわかるように「リンク」マークが付けられている。 ・授業の流れが示され、「ねらい」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる」「深める」といった学びのサイクルが確立されているため、見通しをもって学習ができるように工夫されている。
会長	質問はあるか。
委員 E	新型コロナウイルス感染症の影響から、今後は特に個人個人の感染症対策を高める教育の必要性が求められる。各会社の教科書において、感染症について教材で特徴的なものは何かあるか。
事務局	どの会社の教科書においても、感染症の予防やその対策について掲載されている。資料などの内容についてもどの会社もそれほど大きな特徴は報告されていない。
委員 D	感染症対策について、小学校で学習したことを生かす工夫などはあるか。
事務局	感染症対策の教材に限っているわけではないが、「考える・調べる」コーナーの見方・考え方のところで、小学校で学習した病気の起こり方について触れている教科書もある。
委員 A	保健についてはこのように教科書が存在する。保健の授業で教科書を使って進めていく上で特に各会社で工夫されている点があれば知りたい。
事務局	各会社で、文言の違いはあるが、どの会社についても、①ねらい②課題③考える・調べる④解決⑤まとめの流れで作られており、授業者にとっても、学習者にとっても学びを深めやすい。
委員 D	教科書のサイズなどについては話題としてあがったのか。
事務局	教科書のサイズは、話題にはならなかった。
会長	次に技術・家庭について、技術分野、家庭分野の順に報告を願う。
事務局	<p>技術分野について報告する。 「新しい技術・家庭」（東京書籍）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各編とも冒頭に「目標」を示し、「原理・法則と仕組み」「問題解決」「社会の発展」の流れで構成されている。学習の見通しを持つことができるとともに、主体的に問題の発見と問題解決

に取り組めるようになっている。

- ・生徒が問題解決に取り組めるように「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れがどの内容でも同じように示されている。
- ・適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「最適化の窓」「技術の工夫」という欄を設けて、さまざまな制約条件のもとでの最適化の方法が示されている。
- ・巻末では、技術分野の学習を通して、学んだことがこれから生活や社会でどのように関わり、活用されていくのかについて知ることができる。
- ・写真やイラストを用いて持続可能な社会の実現に向けた取組の紹介や提案が示されており、学んだこととこれからの社会との結びつきを考えられるようになっている。

「New 技術・家庭」（教育図書出版）

- ・「技術ハンドブック」では技能の習得に関わる資料がまとめられ、学習内容に応じて活用できるように工夫されている。
- ・各内容とも問題発見から「基本的な知識と技術の工夫」、「設計・計画」、「製作（制作）」までの流れがステップで分けられ、手順が分かりやすい。
- ・「スゴ技」「技ビト」など、学習内容と社会のつながりが分かる資料が用意され、適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫がされている。
- ・消費者、防災、環境、衛生などのマークを使用すること、技術との関わりについて考えを深めやすい工夫がされている。
- ・持続可能な社会のイメージをイラストなどで示し、技術がこれからの生活や社会、環境とどのようにつながっていくかを読み取りやすくしている。

「技術・家庭」（開隆堂出版）

- ・科学的な根拠やしぐみができる記述やイラストをいれ、知識技能を理解・習得しやすくしている。さらに、学習のまとめごとに「学習の目標」「ふり返り」を設けて、自己評価をしやすくしている。
- ・問題発見から評価・改善までの流れをわかりやすく示し、生徒自身が問題解決に取り組めるようになっている。また、実習例の問題発見から問題解決までの流れにおいて、吹き出しや、図を使いながら生徒の創造力を膨らませるような工夫がされている。
- ・制約条件を明確にし、育んできた見方・考え方を働かせながら、技術を最適化するための思考の流れが示されており、生徒が自主的に考えを深めることができる。また、「参考」や「課題」が示されており、学習をより深める手立てとなっている。
- ・「環境マーク」を付して、環境についての意識を高め、循環型社会の理解に対応していけるようになっている。
- ・持続可能な社会の構築に向けた取組をデータや資料によって示すとともに、「探究」などのマークを使用し、実践的な態度

を養うための工夫がされている。

続けて家庭分野について報告する。

「新しい技術・家庭」（東京書籍）

- ・身に付けさせたい知識・技能を「いつも確かめよう」にまとめて掲載したり、各節の最後に「まとめ活動」を設けたりする等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。
- ・ガイダンスでは、問題解決的な学習を重視した学習の流れを具体例と共に示し、各編の導入では、見方・考え方の例を示すなど問題解決に生かせるようになっている。
- ・自分の生活を定期的にチェックできるようになっており、何ができて、何ができていないのかを確認して、学習のまとめなどから自分や家族の生活で改善できることを記入できるようになっている。
- ・学校の実態や個に応じて、選択できる実習例が実習時間や難易度、手順と共に掲載されている。
- ・特別支援教育の視点から、ユニバーサルデザインフォント、図版やイラストのレイアウト等への配慮やカラーバリアフリーを意識した紙面作りをしている。

「New 技術・家庭」（教育図書出版）

- ・「キーワードチェック」欄での重要語句、実習動画（まつり縫い、ミシンの使い方、調理手順）での技能確認、章末のまとめでの学習の振り返りで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を確認できるようにしている。
- ・実習題材は、基本の作り方や「私のアレンジ」をもとに、生徒一人一人が自らの課題に合わせて工夫し、創造しやすくなっている。
- ・学習の導入での「自立度チェック」、時間ごとに学習を評価する「私の学び」、章末には「学んでよかったこと」「これからの生活でどのように生かしていきたいか」を自分の言葉でまとめ、自分の学習を確認できるようになっている。
- ・ロールプレイング等の実践的・体験的なワークや「話し合ってみよう」「調べてみよう」等の活動例が掲載されている。
- ・ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。

「技術・家庭」（開隆堂出版）

- ・デジタルコンテンツには、実習動画（まつり縫い、ミシンの使い方、調理手順）があり、小学校での技能も含めて参照し、技能の習得に向けた練習ができるようになっている。
- ・「話し合ってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」等の学習活動例があり、対話の中で考えを明確にし、広げていけるようになっている。「生活にいかそう」では、実生活に即した学習を総合的に考える課題例が掲載されている。
- ・学習の「振り返り」や「学習のまとめ」では、学習したことをどのように工夫し、生かしていけばよいかを記述したり、感じ

	<p>たことを深めて自分の考えを書いたりする等、自分の学びを確認できるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」「体験活動」では、実験や調査、ロールプレイングやグループワークの様子等の活動例が掲載されている。 ・本文と資料は「参考マーク」で区別され、奇数ページ右上に学習の関連写真や名称、ページの下には豆知識を掲載し見やすいレイアウトになっている。
会長	技術・家庭 技術分野について質問はあるか。
委員 E	技術分野は特に技能教科ということもあり、個人差が出やすいがその差を埋めるための教科書の工夫についてという視点で話し合われたか。
事務局	知識及び技能の習得という観点で話し合われた。「ポイント」欄や、「技能ハンドブック」などで、技能の習得ができるような資料の充実が見られる。さらに、QRコードなどを活用し、関連した資料やプログラムなどを見ることができるといった特徴があることについて話し合われた。
委員 E	技術分野や家庭分野も含めて、特に技能教科については、中学校の場合将来の職業について考えるキャリア教育の視点も教科書には必要な観点ではないかと思う。キャリア教育的な視点から話題としてあがっていたか。
事務局	例えば、見開きで、小学校の学習の振り返りから中学校卒業後の活用までが示されており、学習内容と社会とのつながりを考えるきっかけとなっているなどの工夫が見られるという点で話題になった。
委員 B	技術分野では、美術と同じように特に絵や図、資料などが豊富にしかも見やすくなっている教科書がいいのかなと思うが、そのような点ではどうか。
事務局	調査員からの報告であがっているように、どの会社についてもだいたい同じぐらいの割合で、絵や図、資料などが掲載されていた。やはり文章よりも資料関係の充実度がどの会社についても目立つ。
会長	技術・家庭 家庭分野について質問はあるか。
委員 C	家庭分野の教科書において、学びに向かう力、人間性等を指導するための工夫についてはどうか。
事務局	まず、(東京書籍)では、自分ができること、できないことなど、自分自身の生活を定期的にチェックできるようになっていること。次に(開隆堂)では、学習したことを工夫し生かすための「振り返り」「学習のまとめ」で、自分の学びを確認できること。そして、(教育図書)では、学習の導入において「自立度チェック」を行い、学習と生活を結びつけられるようになっていることなどが報告されている。
会長	次に外国語 英語について、報告を願う。
事務局	<p>「NEW HORIZON」(東京書籍)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Grammar for Communication での文法の説明が丁寧である。

Use、Form、Let's Try と系統立てていて、生徒にとって理解しやすい構成になっている。また、リスニングや小学校で学習した表現から始まり、復習をしながら基礎・基本の定着が図れる工夫がある。

- Scene 1、Scene 2 の後の「Read and Think 1、2」のパートにおいて、やや長めのまとまった英文を読み、それについての設問に答えるという流れで理解を深める中、手順を追って自分の力で英文を理解しようとする姿勢や能力を育成する構成となっている。
- 環境、伝統、多様性など、人権への配慮や相手意識をもって伝えることを大事にしている。また、他教科の内容を英語で学ぶことができる内容となっている。
- Stage Activity において、既習の英語表現を用いて、「書くこと」「話すこと」の活動に挑戦でき、復習と発展を兼ね備えた構成となっている。
- 「Preview」「Mini activity」「Unit Activity」「Stage Activity」と学習を積み上げていき、4 技能をバランスよく取り入れた構成になっている。

「SUNSHINE」(開隆堂)

- Scene で新しい表現を導入し、簡単な活動で理解することができるような工夫がある。また、コンパクトにまとめてあるため、ポイントが絞りやすく、新出文法事項の定着が図りやすい。
- 学年が上がるにつれて、英語で表現する以前に、自分なりの考えをもたなければならない場面が増えていくため、思考力や表現力を高める構成となっている。また、習得した英語表現を使って、テーマに沿った考えを伝えなければならないため、表現力を高める構成となっている。
- プログラムごとに Goal が設定してあるので、何ができるようになるか明確である。
- 1年生の時からずっと、Interact のパートで自己表現したり、仲間とやりとりしたりする活動があるため、学年が上がり文法事項が複雑になっても、同じような感覚で躊躇なく活動ができ、力を伸ばすことができる構成となっている。
- 小学校で学んだ語彙や表現を繰り返し活用する機会を設けていたり、高校での学習を視野に入れた文章量になっていたりする。

「NEW CROWN」(三省堂)

- Use Read のパートで長めの説明文に挑戦することで、段階を踏んで着実に知識を定着させるような仕組みになっている。USE (読解文) の STAGE が 3 段階になっており、英問英答や本文の要約で単語の穴埋め等の内容理解をするコーナーがある。STAGE 3 では、自分で考えて英語で意見を書くなど、自己表現のコーナーがある。
- Get Plus のコーナーで、実際のコミュニケーションを意識した会話を練習できる工夫がある。

- ・題材が異文化理解、伝統文化、文学、自然科学など多岐にわたり、英語の学習をしながら、様々なジャンルへと視野を広げ、教養を深めることができる。
- ・**Take Action** では、よりコミュニケーション的な場面設定で、「聞く」「話す（やりとり）」活動を行えるため、実践に直結する楽しさを味わいながら活動できる仕組みになっている。
- ・読解部分では、かなり長めの英文を読解し、高校で学習する内容を意識した構成となっている。小学校で学習した語彙や表現を1年生の前期で取り入れ、無理のないスムーズな小中の接続となっている。

「ONE WORLD」（教育出版）

- ・Partごとに**Tool Kit**でパターンプラクティス、そして**Listen**のコーナーで聞き取りを行いことで、基本本文の定着がしっかりと図れる流れになっている。また、巻末の**Activity Plus**では、赤シートを使用し、繰り返し学ぶことができる工夫がある。
- ・3年生は**Debate**のコーナーがあり、自分の意見を持ち、思考力を高める構成となっている。また、**Project**のパートでまとまった英文の作文に挑戦することで、既習事項の活用を通して、表現力を高める構成となっている。
- ・日常生活や身近な話題から社会や将来を考える内容が多い。また、他教科で学ぶことや行事との関連性が高い。
- ・**Review**や**Task**のパートで、教科書本文の読み取りに焦点を当てた活動ができるため、長文読解の基礎を作り、コツをつかむ工夫がある。
- ・**Lesson**の構成がPart1からPart3、最後に目標を達成する**Goal**でタスクを達成して終わる構成となっている。

「Here We Go!」（光村図書出版）

- ・3年間を通してひと続きのストーリーとなっている。**Let's Read**の英文量が多めで、まとまった分量の文章が読むことができるような構成となっている。題材も多岐に渡っており、読んでいて楽しくなりそうな題材が多い。
- ・使用場面が学校生活、旅行、ALTの先生の国のことなど、生徒の身近に起こりうる自然な設定になっており、会話がイメージしやすい。日記やメール、紹介文やインタビュー、記事など様々な形式が用意されている。
- ・巻末の**Active Words**のパートを活用することで、語彙が増え、表現の幅を広げやすい。「もっと知りたい。もっと表現したい。」という生徒の気持ちを満たし、さらに力を伸ばそうとする仕組みになっている。
- ・**Listen**、**Speak**、**Write**の活動が、それぞれUnitに盛り込まれているため、毎回同じ流れで効果的に、定着を図れるような工夫がある。
- ・インスタグラムや絵文字を取り入れる等、生徒の興味・関心を引くような構成である。また、生徒にとって共感しやすい本文の内容となっている。

	<p>「BLUE SKY」(新興出版社啓林館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップによる学習場面の設定がされており、無理なく幅広い知識が得られる仕組みとなっている。また、絵を見ながらパターンプラクティスを行うことで、視覚で場面を捉えながら英文を発音し、ターゲットとなる文章(新出文法)の定着を図りやすい構成となっている。 ・場面、状況に応じて即興で対応する場面を多く取り入れている。また、伝えたい内容を考え、何が適切かを判断し、分かりやすい英語で表現するような活動が多い。 ・UnitごとにGoalが設定してあるので、何ができるようになればよいか明確である。 ・Let's~のコーナーでは、話す、聞く、読む等の技能に特化したコーナーがあり、各技能を向上させる構成となっている。 ・各単元で5領域をバランス良く扱っており、複数の技能を統合した言語活動ができる構成となっている。新出単語及び文法事項の学習、本文の理解、新出表現を活用した自己表現等の一連の流れになっている。
会長	質問はあるか。
委員 C	小学校では今年度から英語が教科化され、昨年度教科書が採択されたが、小・中一貫の視点から協議の中でどんな話題が出ていたか。
事務局	特に中学校1年生での英語嫌いをなくさないように、学習しやすい教科書が必要であることが話題としてあがった。そのポイントとしては、学習過程が分かりやすいか。つまり、めあてや課題は明確なのか。また、扱う教材の質はどうかなどである。
委員 C	その他、小中一貫の視点では、話題はあったか。
事務局	それ以外は、特に話し合いには出ていなかった。
委員 A	外国語を学ぶ上で、大前提として生徒にとって抵抗がない、表記や表現は大切になってくるが、各社の特徴はどうか。
事務局	例えば、2年生の教科書から発音記号があり、自分で読む手がかかりとなっていたり、学年に応じて、英語の字体を変えており、文字のサイズやレイアウトのバランスに工夫を加えていたり、書体が小学校の英語の教科書でも使用されているもので、親しみやすいなどの工夫がされていたりしていることが報告されている。
会長	次に特別の教科 道徳について、報告を願う。
事務局	<p>「新訂 新しい道徳」(東京書籍)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教材冒頭にテーマが示され、最後の設問に示された問いを通して考える構成になっている。発問は「考えよう」「自分を見つめよう」の2段階で構成されている。これによって道徳的諸価値の理解をもとに、人間としての生き方を考える学習活動が体系的になされるよう工夫されている。

- ・3教材を連続して構成する「いじめ問題対応ユニット」と「生命尊重ユニット」を設けて重点的に取り扱っている。一つのユニットには読み物資料だけでなく詩や漫画、絵画資料などの多様な教材を用い、多面的・多角的に学習できるようになっている。
- ・3年生では職業紹介のページを設け、進路指導との関わりを持たせるなど、中学校卒業後への接続を工夫している。
- ・話すことが苦手な生徒でも、心の葛藤を可視化して相手に伝えることができるよう、巻末付録に心情円が設けられている。また、ホワイトボード用紙も付され、話し合い活動で活用できるようになっている。
- ・巻末の自己評価用紙と心情円で、自己を見つめて考えを深めたり、学びを振り返ったりできるようになっている。

「中学道徳」（教育出版）

- ・巻末の「道徳の学びを記録しよう」では学習したことを1時間ごとに記録できるようになっている。また、「道徳の学びを振り返ろう」では学期末や学年末に教材ごとに振り返りができ、自分の学びや成長を振り返ることができるようになっており、道徳的諸価値の理解を深めていくことができる。
- ・「生命の尊さ」と「いじめや差別のない社会」の2つのテーマで複数の教材やコラムをまとめ、ユニット化を図っている。これにより多様な教材から多面的・多角的にテーマを深められるようになっている。
- ・「生命の尊さ」など、重点項目について発達段階に合わせて切実に感じる教材を設けるとともに、内容に系統性を持たせている。
- ・役割演技を取り入れたり、日々の体験を想起して話し合ったりすることを通して、道徳的行為や習慣に結びつけるための「やってみよう」のページが設けられている。
- ・内容項目ごとの問いかけがあり、問題解決的な学習が展開できる。体験的な学習を多く取り入れ、行動化を図っている。学習の手引きでは複数の発問が示され、授業者が学習の形式によって取捨選択できるようになっている。

「中学道徳」（光村図書出版）

- ・はじめの教材に「道徳の授業を始めよう!」、最終教材に「道徳の学びを振り返ろう」を設け、1年間の見通しをたてたり、自己の成長を振り返ったりすることができるようになっている。
- ・いじめ問題と情報モラルに関わる内容について、全学年で取り上げ、生徒たちの身近で起こりそうな場面を通して、自分事として捉え直すことができるように設定されている。
- ・3つのシーズンは「学びのテーマ」に応じて複数の「ユニット」で構成されており、巻末にある「この教科書が目指した〇年生の姿」に向かう構成となっている。

- ・教材の末尾に「道徳的な問題を明らかにする問い」と「道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い」が設定されている。他にも多面的・多角的な見方や考え方ができる問いや他教科や日常生活に関連付けて考えられる問いが設けられている。
- ・1年間で3つのシーズンに分け、学校生活の実態と、それに伴う成長を考慮した年間構成になっている。各教材末には「考えよう」が掲載され、主体的・対話的な学びの姿、多面的・多角的な見方を引き出す「てびき」となっている。

「中学道徳」(日本文教出版)

- ・教材と「道徳ノート」の2冊構成にすることによって、自己の心の成長や変容を記録し、実感したりすることが容易にでき、生徒の主体的な学びを促す工夫がされている。また、他者や自己との対話によって理解した道徳的価値について書き留めることで、より多面的・多角的な理解ができるようになっている。
- ・社会参画や勤労に関わる項目について「よりよい社会のために」ユニットを構成して複数教材を取り扱っている。
- ・各学年のテーマを、第1学年から「新しい自分と『であう』」「人との関係を『みつめる』」「よりよい人生を『ひらく』」と発達の段階に応じて設定し、教材を配列している。
- ・「道徳ノート」に自分の考えを書き込む箇所のほかに友人の意見を記入する箇所を設け、話し合い活動を充実させるとともに、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。
- ・「考えてみよう」「自分に+1」で、考え議論できるような発問を用意し、ねらいに迫ることができるようにしている。「道徳科での学び方」や問題解決的・体験的な学習の手引きとなる「学習の進め方」を示すことで、生徒が主体的・対話的に学べるよう工夫されている。

「新・中学生の道徳」(学研教育みらい)

- ・巻末の「学びの記録」では、授業での学習を自分で振り返ることができ、1年を通じた心の成長を実感させ、これからの生き方を考えることができる構成になっている。
- ・いのちの教育を重視し、「生命尊重」と「いじめ防止」に関する題材を、多用に取り扱っている。特設ページ「クローズアッププラス」を設け、メンタルトレーニングやアンガーマネジメント、自己肯定感といった直接的な内容についても記載している。
- ・情報社会でよりよく生きるための基となる考え方や態度の育成に重点が置かれており、情報モラルについて発達段階に合わせて1年生は「生活習慣」、2年生は「コミュニケーション」、3年生は「情報の発信者、受け手として」をテーマとしている。
- ・冒頭に教材の内容を整理するための問いかけがあり、生徒の興味を引き出すとともに、内容を簡潔にし、話し合いに十分に時間をとることができるようになっている。
- ・「考えを深める4つのステップ」で、生徒が自ら問いを見つけ、課題や問題に対して主体的に向き合える構成となっている。ユ

ニット学習や、特設ページ「クローズアッププラス」での学習により、物事を多面的・多角的に考え、多様な学びができるようになっている。

「中学生の道徳」(廣濟堂あかつき)

- 本冊「中学生の道徳」では、教材をもとに考える主体的・対話的な学習を通して人間としての生き方について考えを深め、別冊「道徳ノート」では、書くことを通して道徳的思考を深め、道徳的価値の理解を確かなものになっている。
- 自立した人間として他者とともによりよく生きる基盤となる道徳性を育むために、「生命尊重」と「いじめ防止・人権尊重」を重点的に扱っている。
- 別冊のノートには、学期や年間の区切りに活用できる振り返りのページがあり、自分の心に残った授業や教材、自身の成長を見つめることができる。
- 各教材にある「考える・話し合う」には学習のめあてを示し、内容項目でまとめられた「道徳ノート」との相乗効果により考えを深めることができる。さらに、問題解決的な学習や、体験的な学習を促す教材を掲載し、多様な指導方法に対応できるようになっている。
- 本冊と別冊「中学生の道徳ノート」の2冊を活用することで、豊かな道徳性を育む構成になっている。本冊の「考える・話し合う」の「学習の手がかり」で生徒が学習の見通しをもって体系的に学ぶことができ、「広げる・深める」で対話的に思考を広げて深める工夫がされている。

「道徳 中学」(日本教科書)

- 各教材に添えられた「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」には、道徳的価値に向き合い、理解するための発問や、自己の生き方を見つめるための発問が設けられ、道徳性の育成につながられるよう工夫されている。
- 「情報モラル」について、情報機器との関わりについて自分事として考えられるような教材を各学年に掲載している。
- 3学年共通の主人公を設定した教材を配置しており、生徒の発達の段階に即して共感的に考えることができるように工夫している。さらに、ワーク方式の教材が各学年に設けられており、思考と議論を学年を超えて積み重ねられるようにしている。
- 各教材に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」を添え、生徒が主体的に考えられる問いを設定し、他者と対話することで自分の考えを深められるようになっている。
- 「道徳科って何を学ぶの?」と「心の成長」の欄では、課題や問題を自分のこととして考え、道徳性を養っていく授業のあり方がイメージ化されている。さらに、巻末にある「私の道徳記録」では1年間の心の成長やこれからの成長に向けて、自分を見つめることができるようになっている。

質問はあるか。

委員 B	「考え、議論する道徳」にするために、どのような工夫がなされているか。
事務局	各会社とも、生徒が主体的に考えられる問い(課題)を設定し、学習の学びの流れを可視化し、発問を明示するなど、話し合いのきっかけ作りをしているなどの特徴が見られる。
委員 D	まだ、いじめ問題については、ニュースにも話題が出てくるが、調査員の話合いでは話題になったか。
事務局	話題としては取り上げられた。全学年を通して、いじめ問題の教材コラムを設定して、いじめ防止を最重要テーマとして、自分のこととして考えやすくするなどの工夫が見られる。
委員 E	切り取り式ホワイトボード用紙・心情円があり、グループ活動などで活用することができるとの報告があったがどこにあるか。
事務局	1年生の教科書の巻末をご覧ください。教具として、ホワイトボードや心情円が各学年で使用できるようになっています。
会長	皆様の御協力により、全ての教科書の報告が円滑に終了することができた。感謝申し上げます。これで議長の任を解かさせていただきます。
事務局	事務連絡を事務局より申し上げる。 第3回選定委員会は、7月17日に行田市産業文化会館第2会議室にて行う。よろしく願います。連絡事項は以上である。
司会	大変お疲れ様でした。以上で、第2回第19採択地区教科用図書選定委員会を終了する。